

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180015		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	徳島県徳島市西新浜2丁目3-33		
自己評価作成日	平成23年度7月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、大型スーパーや店舗の建ち並ぶ生活環境の豊かな場所に立地している。母体法人は、福祉や医療業界に関する幅広いネットワークをもっており、地域に根ざした運営を心がけている。日ごろから、併設事業所の在宅・施設サービスとの協力体制を強化し、夜間の災害時や緊急時に早急な対応ができるよう連携を密に図っている。利用者一人ひとりの個別性を理解し、本人本位のケアが実現できるように全職員がチームとして取り組んでいる。利用者の状況を把握し、日ごろのケアに反映できるように話しあい、介護計画の作成や見直しを行っている。誕生会や夏祭り、敬老会等を併設事業所と合同で開催し、地域住民にも参加していただき好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大型スーパーや店舗の建ち並ぶ場所に立地し、併設事業所の2階に2つのユニットがL字型に位置している。広々としたウッドデッキには花壇や家庭菜園がつけられ、利用者は自由に出入りしており、閉塞感なく行動範囲が広がる工夫をしている。また、併設事業所との協力体制を強化し、夜間の災害時や緊急時等に早急な対応ができるよう連携を密に図っている。管理者と全職員は、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に支援している。また、住み慣れた地域で安心と尊厳を保持しつつ生活することができるよう、ケアの質の向上に向けチームとして取り組んでいる。主治医や協力関連機関との連携を密に図ることで適切な医療の受診を支援しており、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念を掲示し、職員間で意識の共有化を図っている。また、介護理念として、利用者が地域のなかでその人らしく暮らし続けられることを掲げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、スタッフの声を理念に取り入れ、玄関やスタッフルームに掲げている。つねに職員間で意識の共有化を図り、日ごろの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	定期的に、地域の小学生との交流会や事業所見学を行っている。また、毎年、夏祭りや敬老会、開所記念式典等に地域の方々にも参加していただき交流を深めている。地域の美術展に出かけている。	定期的に地域の小学生との交流会が行っている。管理者が学校に向いて学生の質問に答えるなど、高齢者や事業所との関わりの強化に努めている。また、地域の美術展に出かけたり、事業所の行事に地域の方々の参加を促したりして、盛んに交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の独居老人との食事会等で、事業所の広報活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、事業所の取り組みや様々な事柄について報告や相談を行っている。自己評価や外部評価結果を報告し、参加者から卒直な意見をもらってサービスの質の向上に活かしている。全職員で、会議録を回覧し内容を共有している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の取り組みや活動状況などについて報告を行っている。参加者から出された意見等は、全職員で回覧し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導や認定更新の機会等に、具体的な状況を伝えて連携を図っている。事業所で困っていることなどを市担当者に直接相談できるように機会を設けている。	市担当者に、運営推進会議の議事録や事故報告書等を届けており、相談や助言を得ている。また、実地指導や認定更新等、機会あるごとに利用者の暮らしぶりや事業所の取り組み状況等を伝え連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしないケアについて理解し実践している。2か所の出入り口は、職員が誘導しなければ出られないようになっていたが、家族会や運営推進会議で話しあった結果、安全性に配慮したうえでウッドデッキへ自由に出入りできるよう工夫している。	全職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアについて話しあっている。ウッドデッキの出入り口にドアチャイムを取りつけ、自由に出入りできるよう工夫している。構造上の都合により正面入り口となるエレベーターを施錠しており、職員の誘導が必要となっている。	今後も職員間で検討を続け、安全性に配慮した抑圧感のない暮らしの支援に取り組まれない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて、高齢者虐待防止に関する理解の浸透や遵守に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通じて理解を深め、必要と思われる利用者への支援に活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書や利用契約書について説明している。ケアに関する取り組みや退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。契約の改定をする場合には説明を行い、理解を得られるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が、来訪時やケアプランの作成・提出時等に意見や要望を言いやすいように、雰囲気づくりに配慮している。また、家族会や運営推進会議の際に出された意見や要望を運営に反映させている。	定期発行の“たんぼぼ便り”に、日ごろの生活状況や行事の写真を掲載し家族に送付している。家族の来訪時や家族会等で意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見や要望は、職員間で話しあって運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、スタッフミーティングや職員の個別面談を実施して意見を聞くようにしている。日ごろの職員の気づきやアイデアを大切にし運営に反映させている。	管理者は、事業所独自の職員個人目標や評価票を作成している。また、定期的にスタッフミーティングや個別面談等の意見を聞く機会を設け、日ごろの気づきやケアに関するアイデアを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁に現場に来ており、職員が相談しやすい環境にある。職員の疲労やストレスの要因について配慮し、職員同士の人間関係を把握するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、テーマを決めて職場内研修を開催している。毎回、ほぼ全員の職員が出席している。外部研修へも積極的に参加している。新人職員を対象に、日常業務を通して学習する職場内研修の体制を構築し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会徳島県支部に所属し、協会が主催する勉強会や事例検討等に参加している。他事業所の職員と意見交換等を行って、事業所のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人の困っていることや不安に思っていること、希望していることなどを十分に聞き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の希望や不安に感じることを理解し、これまでの経緯についてミーティングを開催して十分話を聞くよう努めている。最初の関わりを通じて、信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱える思いや要望を把握するよう努めている。本人や家族の必要としている支援を見極め、利用者の立場に立った柔軟な対応を心がけている。家族と職員で相談を重ね、信頼関係の構築に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一方的に介護されるだけの受身の立場におかず、人生の先輩として学ばせてもらう場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、利用者の体調や日ごろの生活の様子をこまめに報告し、情報の共有化を図っている。利用者とともに支えていくために協力関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。電話をかけた手紙を出すことを支援している。また、馴染みの美容院や法事、墓参り、地域のかかりつけ医への通院等を継続できるよう支援している。	併設の他サービス事業所と繋がっており、親しい知人や友人が来訪してくれるため、外部との交流を盛んに行っている。また、美容院や法事、墓参り等に出かけており、これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係やその他の情報を全職員が共有できるよう取り組んでいる。また、利用者間でトラブルが生じないよう、職員が調整役となって支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの暮らしの継続性に配慮して、支援状況や習慣、好みなどの情報を提供し相談に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで希望や意向の把握に努めている。また、独自のアセスメントシートを使用し、利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けられるよう支援している。思いや意向の把握が困難な場合は、本人本位に検討し、家族の意見も取り入れて支援している。	本人の生活暦や日ごろの関わりのなかで、利用者一人ひとりの思いやニーズの把握に努めている。家族からも情報を得ており、その人らしい暮らしを継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活暦や馴染みの暮らし方、家族構成、家族暦、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズムを理解するよう努めている。心身状態やできること、わかる力を総合的に把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の意向等を把握してアセスメントやケアプランに反映させている。サービス担当者会議の際、出席者より出された意見等をケアプランに反映させている。	日ごろの関わりのなかで把握した利用者の思いや身体状況、家族の意向等を介護計画に反映し作成している。定期的にサービス担当者会議を開催してモニタリングを実施し、つねに現状に応じた見直しに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の状態やケアの実践を個人ファイルに記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は、ケアプランやモニタリングの評価等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、その時々々の要望に応じている。リハビリテーションやマッサージ、外泊、外出等にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、支援に関する情報を交換するなど協力関係を築いている。警察署や消防署、民生委員と連携を図って協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診は、基本的に家族が付きそうことになっているが、状況に応じて職員が送迎や付き添いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、これまでの受診状況を確認し、本人や家族の意向にそった医療の受診を支援している。また、週1回、定期的に医師の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの関わりの中で、利用者を注意深く観察し、情報や気づきを看護職に伝えていく。利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者がやむを得ず入院に至った際、入院先の医療機関へお見舞いに行き病状を把握するように努めている。医療機関の関係者や情報交換を行って相談にのってもらえる関係づくりの構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。事業所としての方針や具体的な支援方法を示している。	入居時に、重度化した場合や終末期の具体的な支援方法・内容等を説明している。本人の状況や家族の意向を踏まえたうえで、医療機関や関係者間で話しあって情報を共有し、方針を検討して日ごろのケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、事業所内で急変時の対応に関する勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、地域の自主防災会や消防署主催の各種訓練に参加し、地域との協力関係を築いている。法人全体で、災害時用の備蓄を行っている。	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、地域自主防災会や消防署主催の訓練等に参加し、地域との協力関係を築いている。津波や夜間時の災害を想定し、確実に避難誘導をすることができるよう実施訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室はガラス張りになっているが、利用者や家族の希望に応じてフィルムを張るなどの工夫をしている。利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを確保できる声かけや対応に留意している。	管理者のきめ細かい気づきが職員によく浸透している。利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重したさりげない気遣いや声かけに努めており、穏かな態度で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週1回、たんぽぽ喫茶を開催し、利用者の好きな飲み物やおやつを選んでもらったり、更衣時に好きな洋服を選んでもらうなど、複数の選択肢を提案して利用者が自己決定できる場面を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者主体の運営を心がけている。その日の本人の心身の状況を尊重し、その人らしさを大切にしたい支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の生活習慣にそった支援をしている。誕生日や外出する日などには、ともに洋服を選んだり、化粧をしておしゃれを楽しんでもらっている。アロママッサージオイルを使って手指のお手入れもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を立て、菜園でできた野菜を用いて調理している。また、食べやすいように食事形態や食材を工夫している。食前には嚥下体操等を行って食事を楽めるよう工夫している。	利用者の好みを献立に取り入れている。菜園で収穫した季節の野菜を使用している。利用者一人ひとりの食事形態や嗜好に応じて工夫を行い、利用者と職員は同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。また、食前に嚥下体操を行い、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの好みや摂取能力にあわせて対応している。嚥下障害のある利用者には、汁物にトロミをつけたり、ストローで水分補給してもらうなど、摂取量が増えるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけや見守りをしている。毎食後、利用者の状態にあわせて誘導や準備、一部介助を行って口腔ケアに取り組んでいる。入れ歯を使用している場合は、洗浄剤を使用して夜間の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう支援している。チェック表を活用し、利用者一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。気持ちよくトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操やウォーキングを行っている。十分な水分補給や繊維質の多い野菜等の食材を利用することで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する曜日や時間帯は、概ね決まっているが、利用者の状況によって柔軟に対応している。利用者一人ひとりの希望やタイミングにあわせ、数種類の入浴剤を選択して使用するなど、入浴を楽しめるよう支援している。	週3回、ユニットごとに交互に入浴日を決めているが、利用者の体調や希望に応じ対応している。入浴を拒む利用者には無理強いをせず、利用者一人ひとりの状況に配慮した支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な睡眠が得られるように配慮している。円滑に就寝できるように、夕方から穏やかでゆったりした時間を過ごせるよう配慮している。昼食後も食堂に設置しているソファ等でくつろげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの服薬の名前や作用、副作用、服用回数等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活のなかで役割を担ってもらい、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。菜園で野菜づくりを楽しんだり、収穫した野菜を食事に使って喜んでもらえるよう工夫している。ウッドデッキでは、夕涼みや花火、西瓜割り等を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回程度の外出で気分転換やストレス発散を図っていただいている。花見や買い物、喫茶店、美術館、阿波踊りの鑑賞等の支援を行っている。	日ごろから、利用者の状況や希望に応じて近隣へ散歩に出かけたり、大型スーパーに買い物に行ったりしている。また、定期的に美術館や喫茶店、花見、阿波踊り等に行っており、積極的な外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では、家族の協力を得て小額のお金を所持している方もいる。外出時、お金を自分で払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかける手伝いをしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、利用者の写真やちぎり絵などの趣味の作品を展示している。食堂のガラス窓にゴーヤで緑のカーテンをつくり、涼しく居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。また、各ユニットにマッサージ器を設置している。	職員は、共用空間の採光に配慮しており、明るく開放感に満ちた空間となっている。壁面には、利用者の思い出の写真や趣味の作品等を展示している。また、各ユニットにマッサージ器を設置し、ゆったりとくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを設置し、気のあう利用者同士が談笑できるようにしている。また、テレビの前に設置しているソファの配置を工夫し、利用者全員が楽しみやすいように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具が備え付けられているが、本人や家族の希望を取り入れて好みの品を飾るなどして、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	居室には必要な家具を備えつけているが、本人や家族の希望により馴染みの品物を持ち込んでもらっている。利用者は、好みの品や写真を飾っており居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて介護シューズを使用してもらい、安全で自立した生活が送れるよう支援している。居室の場所がわかりやすいように、離れても見える位置に名前を掲示している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念を掲示し、職員間で意識の共有化を図っている。また、介護理念として、利用者が地域のなかでその人らしく暮らし続けられることを掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の小学生との交流会や事業所見学を行っている。また、毎年、夏祭りや敬老会、開所記念式典等に地域の方々にも参加していただき交流を深めている。地域の美術展に出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の独居老人との食事会等で、事業所の広報活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、事業所の取り組みや様々な事柄について報告や相談を行っている。自己評価や外部評価結果を報告し、参加者から卒直な意見をもらってサービスの質の向上に活かしている。全職員で、会議録を回覧し内容を共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導や認定更新の機会等に、具体的な状況を伝えて連携を図っている。事業所で困っていることなどを市担当者に直接相談できるように機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしないケアについて理解し実践している。2か所の出入り口は、職員が誘導しなければ出られないようになっていたが、家族会や運営推進会議で話しあった結果、安全性に配慮したうえでウッドデッキへ自由に出入れるよう工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて、高齢者虐待防止に関する理解の浸透や遵守に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通じて理解を深め、必要と思われる利用者への支援に活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書や利用契約書について説明している。ケアに関する取り組みや退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。契約の改定をする場合には説明を行い、理解を得られるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が、来訪時やケアプランの作成・提出時等に意見や要望を言いやすいように、雰囲気づくりに配慮している。また、家族会や運営推進会議の際に出された意見や要望を運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、スタッフミーティングや職員の個別面談を実施して意見を聞くようにしている。日ごろの職員の気づきやアイデアを大切にし運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁に現場に来ており、職員が相談しやすい環境にある。職員の疲労やストレスの要因について配慮し、職員同士の間関係を把握するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、テーマを決めて職場内研修を開催している。毎回、ほぼ全員の職員が出席している。外部研修へも積極的に参加している。新人職員を対象に、日常業務を通して学習する職場内研修の体制を構築し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会徳島県支部に所属し、協会が主催する勉強会や事例検討等に参加している。他事業所の職員と意見交換を行って、事業所のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人の困っていることや不安に思っていること、希望していることなどを十分に聞き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の希望や不安に感じることを理解し、これまでの経緯についてミーティングを開催して十分話を聞くよう努めている。最初の関わりを通じて、信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱える思いや要望を把握するよう努めている。本人や家族の必要としている支援を見極め、利用者の立場に立った柔軟な対応を心がけている。家族と職員で相談を重ね、信頼関係の構築に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一方的に介護されるだけの受身の立場におかず、人生の先輩として学ばせてもらう場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、利用者の体調や日ごろの生活の様子をこまめに報告し、情報の共有化を図っている。利用者とともに支えていくために協力関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。電話をかけたり手紙を出すことを支援している。また、馴染みの美容院や法事、墓参り、地域のかかりつけ医への通院等を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係やその他の情報を全職員が共有できるよう取り組んでいる。また、利用者間でトラブルが生じないよう、職員が調整役となって支援している		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの暮らしの継続性に配慮して、支援状況や習慣、好みなどの情報を提供し相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで希望や意向の把握に努めている。また、独自のアセスメントシートを使用し、利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けられるよう支援している。思いや意向の把握が困難な場合は、本人本位に検討し、家族の意見も取り入れて支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、家族歴、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズムを理解するよう努めている。心身状態やできること、わかる力を総合的に把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の意向等を把握してアセスメントやケアプランに反映させている。サービス担当者会議の際、出席者より出された意見等をケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の状態やケアの実践を個人ファイルに記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は、ケアプランやモニタリングの評価等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、その時々必要に応じている。リハビリテーションやマッサージ、外泊、外出等にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、支援に関する情報を交換するなど協力関係を築いている。警察署や消防署、民生委員と連携を図って協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診は、基本的に家族が付きそうことになっているが、状況に応じて職員が送迎や付き添いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの関わりの中で、利用者を注意深く観察し、情報や気づきを看護職に伝えている。利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者がやむを得ず入院に至った際、入院先の医療機関へお見舞いに行き病状を把握するように努めている。医療機関の関係者と情報交換を行って相談にのってもらえる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。事業所としての方針や具体的な支援方法を示している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、事業所内で急変時の対応に関する勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、地域の自主防災会や消防署主催の各種訓練に参加し、地域との協力関係を築いている。法人全体で、災害時用の備蓄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室はガラス張りになっているが、利用者や家族の希望に応じてフィルムを張るなどの工夫をしている。利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを確保できるよう声かけや対応に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週1回、たんぽぽ喫茶を開催し、利用者の好きな飲み物やおやつを選んでもらったり、更衣時に好きな洋服を選んでもらうなど、複数の選択肢を提案して利用者が自己決定できる場面を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者主体の運営を心がけている。その日の本人の心身の状況を尊重し、その人らしさを大切にしたい支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の生活習慣にそった支援をしている。誕生日や外出する日などには、ともに洋服を選んだり、化粧をしておしゃれを楽しんでもらっている。アロママッサージオイルを使って手指のお手入れもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を立て、菜園でできた野菜を用いて調理している。また、食べやすいように食事形態や食材を工夫している。食前には嚥下体操等を行って食事を楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの好みや摂取能力にあわせて対応している。嚥下障害のある利用者には、汁物にトロミをつけたり、ストローで水分補給してもらうなど、摂取量が増えるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけや見守りを行っている。毎食後、利用者の状態にあわせて誘導や準備、一部介助を行って口腔ケアに取り組んでいる。入れ歯を使用している場合は、洗浄剤を使用して夜間の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう支援している。チェック表を活用し、利用者一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操やウォーキングを行っている。十分な水分補給や繊維質の多い野菜等の食材を利用することで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する曜日や時間帯は、概ね決まっているが、利用者の状況によって柔軟に対応している。利用者一人ひとりの希望やタイミングにあわせ、数種類の入浴剤を選択して使用するなど、入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な睡眠が得られるように配慮している。円滑に就寝できるように、夕方から穏やかでゆったりした時間を過ごせるよう配慮している。昼食後も食堂に設置しているソファ等でくつろげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの服薬の名前や作用、副作用、服用回数等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活のなかで役割を担ってもらい、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。菜園で野菜づくりを楽しんだり、収穫した野菜を食事に使って喜んでもらえるよう工夫している。ウッドデッキでは、夕涼みや花火、西瓜割り等を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回程度の外出で気分転換やストレス発散を図っていたいとしている。花見や買い物、喫茶店、美術展、阿波踊りの鑑賞等の支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では、家族の協力を得て小額のお金を所持している方もいる。外出時、お金を自分で払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかける手伝いをしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、利用者の写真やちぎり絵などの趣味の作品を展示している。食堂のガラス窓にゴーヤで緑のカーテンをつくり、涼しく居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。また、各ユニットにマッサージ器を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを設置し、気のあう利用者同士が談笑できるようにしている。また、テレビの前に設置しているソファの配置を工夫し、利用者全員が楽しみやすいように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具が備え付けられているが、本人や家族の希望を取り入れて好みの品を飾るなどして、居心地よく過ごせる工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて介護シューズを使用してもらい、安全で自立した生活が送れるよう支援している。居室の場所がわかりやすいように、離れても見える位置に名前を掲示している。		